

令和 7 年度

益子町教育委員会活動状況評価報告書

益子町教育委員会

令和 7 年度益子町教育委員会活動状況評価報告

1 点検・評価について

(1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果について報告書を作成し、議会に提出するとともに公表をする。

(2) 目的

教育委員会の各施策・事業について着実に実施されているか、また、効果的に行われているかについて、教育委員会自ら点検・評価を行うことにより、今後より一層の教育行政を推進するとともに、町民に対し教育行政の説明責任を果たしていくことを目的とする。

(3) 点検評価の方法

点検・評価の客観性を確保するほか、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、教育委員会活動の自己点検・評価外部検討委員会を開催して、教育委員会の各施策・事業について各担当より説明し、外部評価委員から意見、助言を求める。

外部評価委員

氏 名	所 属 等
渡 邊 重 雄	元 町 議 会 議 員
日 下 恵	P T A 代 表
手 塚 朗 彦	元 小 学 校 長
大 内 正 美	民生児童委員代表

(4) 評価方法

評価は A から D で行い、D は改善策を示す。

- A 目標を達成している。
- B 目標を上回っているが改善すればさらに良くなる。
- C 目標どおりであるが改善すべき点がある。
- D 目標を下回り改善を要する。

2 点検・評価結果

◎評価のまとめ

(1) 教育行政全般 (評価最頻値 : A)	
ア 特に良好であった内容 なし	
イ 特に改善を要する内容 なし	改 善 策

(2) 学校教育 (評価最頻値 : A)	
ア 特に良好であった内容 ⑤特別支援教育（教育相談）について ⑦小中学校体育館への空調設備の設置	
イ 特に改善を要する内容 なし	改 善 策

(3) 生涯学習 (評価最頻値 : A)	
ア 特に良好であった内容 ⑬日本遺産について	
イ 特に改善を要する内容 なし	改 善 策

〔 教育行政全般 〕

項 目	評 価 指 標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
1 教育行政基本方針の策定	(1) 新教育基本法を踏まえ教育行政基本方針が策定されている。	A	毎年2月、定例教育委員会で「益子町教育行政基本方針」を策定している。	A	
	(2) 教育行政基本方針を議会に公表している。	A	2月の全員協議会において説明している。		
2 教育委員会の評価と結果公表	(1) 教育委員会の活動について評価を実施している。	A	平成20年度から活動状況点検と評価を実施している。	A	
	(2) 評価結果を公表している。	A	毎年議会に報告するほか、益子町HP上において公表している。		

〔 学校教育 〕

項 目	評 価 指 標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
3 小学校外国語活動・外国語科	(1) 児童の外国語におけるコミュニケーション能力の素地を育成している。	A	児童アンケート(小6)より「外国に興味がある: 72.2%」「英語を使って、コミュニケーションができるようになりたい: 85.4%」の肯定的な回答率を得た。児童が外国に興味をもったり、英語を使って、積極的にコミュニケーションを図ろうとしたりする態度を育成することができた。	A	
	(2) 授業研究会や外国語活動研修会、授業力アップ講座を行い、授業改善への取組を推進している。	A	小学校1・2年生において、外国語活動で担任とALTで授業を実施し、小学校3年生以上の外国語科活動及び外国語科の授業については、外国語専科教員がALTと実施している。外国語の研究授業や授業研究会を通して、指導力の向上を図った。		

項 目	評 価 指 標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
4 魅力ある学 校づくり	(1) 児童生徒指導部会 や研修会等を行い、小 中学校が連携し、不 登校やいじめを未然 に防ぐことをねらい とした取組を推進し ている。	A	WEB-QU調査を実施 し、指導者が帰属 意識の高い学級づ くりを行い、児童 生徒一人一人の自 己有用感を高めら れた。教職員対象 のWEB-QU研修会を 開催し、その結果 を即座に学級経営 に反映させること とだけでなく、不 登校やいじめを未 然に防ぐ手立てと して学級経営に生 かすようにしてい る。	A	○WEB-QU 調 査 の 活 用により、学級経営 の改善がみられた。

項 目	評 価 指 標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
4 魅力ある学 校づくり	(2) 全国学力・学習状況調査やとちぎっ子学習状況調査、益子町学力学習状況調査を実施し、その結果を分析し、児童生徒の学力向上に向けて、組織的に取り組んでいる	A	学力向上コーディネーターとともに学校訪問を展開し、各学校の学力向上改善プランの作成を支援し、学習指導に関わる検証改善サイクルを確実に運用させ、児童生徒一人一人の学力や教師の指導力の向上が図れた。全国学力・学習状況調査の小6年では、国語は全国平均をわずかに上回っている。算数は全国平均を2ポイント以上上回っている。中3年では、国語は全国平均を1ポイント以上上回っている。数学では全国平均を2ポイント以上上回っている。学力向上推進リーダーや学力向上コーディネーターが教員の指導力向上に向けた取組や学校における学力向上に向けた学校組織マネジメントの充実を図るための取組等を支援している。		
	(3) 教育課程特例校制度における年間指導計・単元計画を作成し、専科教員、学級担任主導で毎時間ALTとのチームティーチングで外国語活動を実施している。	A	年間指導計画をもとに、専科教員、ALTとのチームティーチングで外国語の授業を工夫しながら実施することができた。		

項 目	評 価 指 標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
5 特別支援教育	(1) 対象の園児・児童生徒の様子を観察し、保護者と教育相談を行っている。	A	平成29年度から開始した各園への巡回相談(年長児対象)を令和7年度も実施し、対象となる子どもの詳細な状況を把握することができた。また臨床心理士・園・学校・保健センターとの情報共有をより密に行うことにより、早期から保護者との教育相談に取り組むことができた。	A	○保護者の思い、教員の思い、専門家との連携がしっかりやっていることがみてとれる。継続してほしい。
	(2) 能力に見合った適切な教育機関への就学指導を行っている。	A	対象となる子どもの知能発達検査等を実施し、客観指標をもとに保護者に対し就学相談を複数回実施した。指標の採用や資料等により対象児童への指導方針も明確にすることができた。		
	(3) 教育支援委員会を適宜開催している。	A	各小中学校の担当者会議を7月に開催し、入級判定基準の確認や審議資料・個別の指導計画資料の作成方法等について情報交換・共有を行った。令和7年度は管理職も参加対象とし共通理解を図ることによって、適切に会議を開催することができた。		

項 目	評 価 指 標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
6 教育支援センターの運営	(1) 教育支援センターの運営が円滑に行われている。	A	センター長を中心に通級児童生徒に対してきめ細やかな指導助言に努め、充実した運営を行った。	A	▲教育支援センターでもA Iドリルの活用を検討してほしい。
	(2) 「学校に行けない、行かない」子ども達に居場所を提供し、個別学習、相談や体験活動等を通し、社会に出て行くための基礎づくりをしている。	A	子ども達の実態に応じた個別学習の場を設定したり、調理実習や校外学習等を実施したりすることができた。また、学校や関係機関と連携を図りながら、子ども達や保護者と教育相談を行った。		
7 学校施設整備	(1) 教員等学校現場の意向を反映している。	A	設計の段階から、学校と綿密に連携を図り、工事等を実施している。	A	○小中学校体育館への空調設備の設置。
	(2) 学校現場の状況に合わせ、整備計画を適宜見直している。	A	優先順位を見直しながら、適切な整備計画に更新している。		
	(3) 学校の実態を十分に把握し、適切に学校施設の維持管理を行っている。	A	学校の実態を把握した上で、緊急性の高いものから順次修繕を行った。		
	(4) 工事に伴う生徒の安全確保がなされている。	A	工事打合せの中で、生徒の安全確保に努めるよう指示した。		

項 目	評 価 指 標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
8 スクールバス運行	(1) スクールバスを円滑に運行している。	A	バス停の新設、廃止に伴い、始業式前に滞りなく運行ルートの変更を行うことができた。	A	
9 奨学資金貸与	(1) 経済的に修学が困難かつ、修学の意欲のある者に奨学資金貸与制度の周知を行っている。	A	ホームページや広報紙等で制度の周知を行った。令和7年度より、経済的負担の軽減と定住促進を目的として奨学金返還支援事業補助金制度を開始した。	A	○奨学金返還支援事業補助金制度はとてもよい。周知を進めて町への定住につなげてほしい。
	(2) 奨学資金の未納者に対する追跡調査を行い、奨学資金の適正な管理を行っている。	B	催告書の郵送を継続する。未納者のうち1名から一部返還があった。		
10 異文化体験	(1) 国際感覚を養うため、異文化体験の機会を設ける。	—	中学生海外派遣事業については、国際情勢が不安定なため、一時海外派遣を中止している。	—	

項 目	評 価 指 標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
1 1 学校給食	(1) 委託業者との連携を密にし、安全・安心な給食の提供を行っている。	A	毎日、委託業者と打合せを行い、情報共有や共通認識をもつことができ、円滑に給食を提供できた。	A	
	(2) 地元食材を活用し地産地消の取り組みを行っている。	A	J Aや生産者と打合せをし、安全・安心な地元食材の優先的な使用に努めた。		
	(3) アレルギーに配慮した給食の提供を行っている。	A	「学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」に基づき、食物アレルギーを持つ児童生徒に対し面談等を行い、代替食・除去食の提供を適切に行った。		
	(4) 給食費の未納対策を行っている。	B	学校と連携し、未納解消に努めた。		

〔 生涯学習 〕

項 目	評 価 指 標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
1 2 生涯学習並びに社会教育の充実	(1) いきいき講座の利用促進・自主教室の充実を図っている。	A	いきいき講座は町民編44講座、行政編63講座を開設。自主教室は53教室開催し、生涯学習の充実を図った。	A	○公民館施設の利用頻度が高くてよい。 ○花いっぱい運動コンクールは充実している。継続して推進してほしい。
	(2) 学校支援ボランティアの充実やコミュニティ・スクールの推進を通し学社連携・融合事業の推進を図っている。	A	広報誌（学校支援ボランティアだよりふれあい通信）を作成し活動をPRした。 また、令和7年度より町内全校に設置されたコミュニティ・スクールの円滑な推進に努め、地域と学校の連携構築を図った。		
	(3) 青少年教育並びに成人教育の推進を図っている。	A	青少年健全育成、女性団体の支援を行っている。 また青少年から高齢者まで各年代ごとに講座開設を行った。		
	(4) 地区ぐるみ活動等地域コミュニティ活動の充実を図っている。	B	生涯学習推進協議会と連携した地域コミュニティの醸成を図った。		
	(5) 町民と協働し花で包まれたまちづくりを行っている。	B	花いっぱい運動コンクールの開催、花いっぱい推進事業等を行い、花で包まれたまちづくりを行った。		

項 目	評 価 指 標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
1 2 生涯学習並びに社会教育の充実	(6) 未来大学を開設しまちづくりに関する講座の実施及びアクションプランを作成する。	A	益子芳星高校2年生全員を対象に町民大学の後継事業とし19講座を実施した。保育、食物調理、デザイン、進学コースが6つアクションプランを作成し、地域に出て実践や成果発表を行った。		
	(7) 図書の充実と図書ボランティアグループ支援を行い、図書活動の推進を図っている。	A	図書館開館を見据え、将来にわたって利用の見込める図書の充実に注力した。 BMの運行により、町内の幼稚園保育園、小中学校等を巡回し、子どもの読書活動の推進を図った。 また、ボランティアグループと連携し、読書環境の向上に努めた。		

項 目	評 価 指 標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
13 文化関係事業充実	(1) 歴史文化基本構想や日本遺産を活用した地域活性化事業を実施する。	A	歴史文化基本構想を軸とした文化財の保存と活用を目的として、ましこ検定や世間遺産ウォーキングツアー等を実施。ましこ検定（中学生の部）では、昨年度に引き続きデジタル化による試験を実施し、絵や写真を交えて問題に組みやすい工夫に努めた。そして、町の歴史・文化を周知する機会となり、郷土学習の推進も図ることができた。 「日本遺産活性化協議会補助金」を活用してかさましこ5周年記念「登り窯プロジェクト事業」を実施し文化遺産を活用した地域コミュニティの活性化を推進することができた。	A	○指定の見直しなど日本遺産の活用が課題とされる中、「かさましこ」においては活動が活発に展開されている。
	(2) 芸術・文化の振興を図っている。	A	文化協会等の文化団体の育成、芳賀地方芸術祭の実施運営を行った。自主事業として文化祭・音楽祭・アマチュアバンドコンサートの開催により芸術・文化活動の振興と充実を図ることができた。		

項 目	評 価 指 標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
1 3 文化関係事業充実	(3) 文化財の保護に努めている。	A	文化財保存事業の推進、文化財指定手続きの継続、文化財保護意識の啓発に努めた。 益子町詳細遺跡分布地図を基礎とした遺跡保護に繋がる指導の実施。 また国指定文化財「圓通寺の表門」及び県指定文化財「一切経塔」にそれぞれ自動火災報知機を設置した。		
	(4) 町民会館の管理運営及び受付業務を適切に実施している。	A	会館ホールを活用し、民謡・舞踊等や小中学校等の吹奏楽発表、ミュージカル等を開催し、文化交流の機会を提供することができた。管理においては、利用者の安全確保、施設・機材のメンテナンスの徹底、利用者への適切な説明等の対応を行った。		
1 4 社会体育事業充実	(1) 総合型地域スポーツクラブの育成支援を図っている。	A	クラブと連携を図り、クラブのPRと事業の適正な執行に努めた。また、南運動公園受付業務について令和4年度から業務委託をしている。	A	▲人口減少が進む中でのスポーツ振興のあり方について、研究・検討を進める必要がある。

項 目	評 価 指 標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
14 社会体育事業充実	(2) 少年スポーツ教室を開催し、心身の向上を図っている。	A	6月にBREX. EXE選手によるバスケットボール教室、10月に佐藤あり紗さんによるバレーボール教室、12月に栃木SC選手によるサッカー教室と西川清紀八段他による剣道教室、2月に村尾三四郎選手による柔道教室を開催することが出来た。		
	(3) 体育施設の整備、適切な管理運営を図っている。	A	南運動公園及び北公園の施設修繕、遊具点検及び修繕など、利用者が安全そして快適に使用できるよう努めた。また、総合体育館武道場畳や更衣室シャワーの更新を行い、光熱費の削減、利用者が快適に使用できるよう努めた。		
	(4) スポーツ団体の育成・支援を図っている。	B	スポーツ少年団、スポーツ協会等の団体へ活動支援を行ったが、年々スポーツ少年団の加入者数の減少・活動休止傾向にある。		

項 目	評 価 指 標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
1 5 陶芸美術 館事業充 実	(1) 文化的・芸術的な体験をする機会の提供を図る。郷土の産業や歴史を学ぶ場として、益子焼の案内を実施する。	A	企画展を4回開催し、加守田章二氏とそれに連なる焼締陶の作家たち、松崎健氏や宮澤章氏といった益子焼作家のほか、備前焼や主に硝子を使用した造形家など多様な展覧会を開催した。益子焼の歴史を学ぶコーナーを常設している 他、学校団体利用を受け入れている。	A	
	(2) 国際工芸交流事業における作家招聘、公募募集を行い、関係交流人口の増加や益子焼産地の活性化を図る。	A	イギリス・リーチ工房副館長のマシュー・タイアス氏を招聘し、約2か月間滞在、ワークショップやオープンスタジオ、ギャラリートーク等を実施した。公募作家1名（イタリア）が約2か月間滞在し、ワークショップ等を実施した。		